

子供と老人

くるま社会での"弱者"を守る

4月6日から「春の全国交通安全運動」

新入学期を迎えた四月六日から十日間、恒例の「春の交通安全運動」が全国一斉に行われます。四月は毎年、新入学期や行楽シーズンのため、交通事故が多くなる季節です。悲惨な犠牲者を出さないように、すべての道路利用者が、正しい交通ルールとマナーを習慣づけることを目的に、交通安全運動が行われます。

運動の重点は、次のとおりです。
①歩行者、特に新入学(園)児を中心とした子供と老人の交通事故防止
②自転車安全利用の促進
③安全運転管理の充実と安全運転の確保
④シートベルト着用と運転マナーの向上促進

交通安全は家庭から

交通事故の防止には、特に家庭での話し合いが大切です。夕食のひとときなど、家族みんなで「交通安全」について、あらゆる立場から話し合い、実践しましょう。

市内の交通事故は増加の傾向

県内で昨年発生した交通事故を調べてみますと、事故件数は八千六百六十七件(前年比二百二十九件減)、死者は百七十五人(前年比六人減)、負傷者は一万一千十人(前年比四百三十九人減)。件数、死者、負傷者とも大幅に前年を下回っているのが特徴です。

それに対し日光市の場合、事故件数は三十七件増、死者二人増、負傷者四十八人増と、前年に対し大幅に上回りました。

しかし、県内においては昭和四十七年以降、八年連続の減少を見ているものの、交通弱者といわれる子供や老人の交通事故は増加の傾向にあり、全事故の三四%を占めています。その中でも、歩行中

自宅の近くが危険地帯

「くるま社会」の中での弱者は歩行者。特に子供と老人です。子供の場合、どんなときに悲惨な交通事故が起きるのでしょうか。警察庁の追跡調査によりますと、自宅近くの事故が最も多く、特に半経五〇以内でひん発しています。

子供や老人がいるご家庭では、ふだんから「交通安全」について話し合い、くるま社会での「弱者」を、交通事故の犠牲者にしないようにしましょう。

期間中の行事日程

こうした傾向は幼児ほど強く、小学生では下校時か、学校から帰って一・二時間後に一番多く死亡事故が発生しています。「曜日別に見ても、土・日曜の事故発生率が高いことから、一種の解放感が事故に結びつくのでは

ないでしょうか」と、警察では分析しています。子供は一つのこと夢中になると、まわりのことが目に入らなくなり、ボールを追いかけて車道に飛び出したりします。また、子供は大人と違って、そのときどきの気分で行動する特性がありますので、お母さんや運転者は、このことを十分にわきまえておいていただきたいのです。

や自転車による事故が七五%を占めているのが特徴です。死亡事故を原因別に見ますと、一位が速度違反で三十人、二位が酒酔い運転十四人、三位が右左折違反、続いて追い越し違反となっており、いずれも無謀運転が上位を占めています。

- 交通安全運動周知日(六日) 市内の交通要所で、パンフレットを通行人に配り、安全運動の周知を図ります。
- 交通安全パレード(九日、午前十時三十分～十一時三十分) 総合会館から国鉄日光駅まで、交通安全パレードを行います。
- 大型車左折巻き込み実験会(十日、日小・大衆グラウンド) ●安全運転管理者事業所訪問指導(期間中) 安全運転管理者のいる事業所を訪ね、運転者の管理面について指導を行います。
- 交通安全キャラバン隊(十四日 午前九時～十一時三十分) 市内の幼稚園、保育所を訪問。交通安全教育を行います。
- シートベルトと整備不良車の点検(十五日、午後一時～四時) 清滝バイパスで行います。
- サイレンの吹鳴(期間中)

春の市民総ぐるみ 防犯運動

4月21日～27日

- 空き巣ねらいと乗りもの盗の防止。
- 少年非行の防止。

午前七時に一回、市内全域でサイレンを吹鳴します。
●交通関係の開設(期間中) 神橋付近に交通関係所を開設。通車両に通行人形やパンフレットを配り、事故防止を呼びかけます。
●老人宅訪問指導(期間中) 各駐在所、派出所単位に老人宅を訪問。交通事故防止の指導を行います。